

平成24年12月

清水翔吾 学位論文審査要旨

主査 岡田 太
副主査 富田 修平
同 松浦 達也

主論文

Nicorandil ameliorates ischaemia-reperfusion injury in the rat kidney

(ニコランジルはラット腎臓における虚血-再灌流傷害を改善する)

(著者：清水翔吾、齊藤源顕、木下ゆか子、大政史弥、Dimitriadis Fotios、庄盛浩平、
林篤、佐藤慶祐)

平成23年 British Journal of Pharmacology 163巻 272頁～282頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究はSprague Dawley ラットを用いて、腎虚血-再灌流傷害モデルを作製し、ATP感受性カリウムチャンネル開口薬であるニコランジルとクロマカリムの治療効果を検討した。その結果、虚血-再灌流モデルにおいて、組織学的に近位尿細管上でネクロシス及び酸化傷害が見られたのに対して、ニコランジルとクロマカリムは近位尿細管の傷害マーカーである β 2-Microglobulinを軽減し、酸化傷害を抑制した。本論文の内容はATP感受性カリウムチャンネル開口薬が、腎移植及び腎部分切除等で発生する腎虚血-再灌流傷害による近位尿細管傷害を軽減する可能性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。